

「シブヤ経済新聞」などの人気サイト誕生には、そのネーミングと迅速な行動力に秘策があった

事業内容

広域渋谷圏のビジネス&カルチャーニュースを配信する情報サイト「シブヤ経済新聞」、全国のデパ地下情報を発信するポータルサイト「デパチカドットコム」の企画・運営、及び各地域版のネット経済新聞 77 メディアをつなぐ「みんなの経済新聞ネットワーク」の統括・管理。他、Web コンテンツの取材編集から構築、メンテナンス、PR、SP 戦略の立案など幅広く手掛ける。

特許登録番号と内容

商標登録第 4921425 号	シブヤ経済新聞
商標登録第 5053974 号	みんなの経済新聞

(2013年1月現在)



代表取締役 西 樹さん (シブヤ経済新聞編集長)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

街の記録係をめざして「シブヤ経済新聞」を創刊

2000年の創刊以来、「シブ経」の愛称で広く親しまれている「シブヤ経済新聞」。手掛けているのは、設立から20期以上を数える株式会社花形商品研究所だ。同社代表であり、シブヤ経済新聞編集長の西樹さんは、創刊の経緯をこう語る。

「私はもともとPR会社の出身。創業時は企業のPRやSPのプランニング・制作を手掛け、90年代後半からWeb制作も受託するようになりました。元々渋谷は好きな街だったので、その頃から渋谷界隈のクライアントが多くなり、日々、変化の激しい渋谷を歩いているうちに、渋谷の街がどう動いているかが知りたい、それを記録していきいたい、と思うようになりました。名前をつけるとしたら「シブヤ経済新聞」といったようなものがあつたら面白いだろうな、と考えたのがきっかけです。」

そのアイデアは、渋谷をテーマにしたラジオ番組とコラボレーションすることになり、一気に加速する。毎週、「シブ経」の特集と連動した渋谷の最新情報を、西代表自身が生出演して話をする。番組は4、5年も続いた。毎週のことだけに大変ではあったが、街ネタを取材し、記事にするといった基本的なスキルはここで培われていったという。

その後、様々な人との出会い、縁あって、現在では77のエリアで「みんなの経済新聞」が作成され、各地の街の動きやニュースが掲載されている。同社はそれらを結ぶ「みんなの経済新聞ネットワーク」の統轄本部として、記事の精度向上や業務の効率化にも努めている。

アイデアは形にする前に商標とドメインをセットで考える

もうひとつ同社の事業に、デパ地下をテーマにした情報サイト「Depachika.com (デパチカドットコム)」がある。開設したのは2000年。この頃は、通りのいいドメインの取得が競争のようになっていた時代だった。「デパ地下がブームになっていたので、depachika.comというドメインを調べてみたら空いていた。ドメインが取れたから、デパチカに関する情報発信をやるか、と



「不況に負けない経済グッドニュース」(東京書籍) 森永卓郎監修、みんなの経済新聞ネットワーク著

みんな経ネットワークの記事から、注目度の高かった、心温まるニュースを厳選し、一冊にまとめた書籍も出版されている

COMPANY DATA

所在地：東京都渋谷区恵比寿西 1-19-6 UNパークビル4F
電話番号：03-5459-8787 URL：http://www.hanagata.com/
創業：1988年8月 資本金：1000万円 売上高：非公開
従業員数：10名 (2013年1月現在)

いった感じでスタートしました」と西代表は笑う。

そしてここに、西代表がビジネスを展開するうえでの注目すべきポイントがある。「私の場合、何かアイデアが浮かんだら、それを的確に言い当てるキーワード=名前を考えます。思い浮かばない時は、新しい事業に結びつけることは難しいのですが、いい名前さえ決まれば、その名前を元にアイデアをどんどん進化させられる。アイデアの書類フォルダに、最初にタイトルをつけるような感じですね」と西代表。

キーワードを思いついた時点で、商標とドメインが取れるかどうか調べる。「使われていたら、どんなにアイデアが良くても、同じような考えで行われている事業が既にあるということ。無理にこのアイデアを事業化しても、最初に考えた名前が使えないのであれば、いずれどこかでコンセプト自体を考え直さなければならなくなる。それならば、と諦めてしまうことがほとんどです。逆に商標登録されておらず、ドメインも取れるとなれば、「この先、ビジネスとして成立するのではないか、更にアイデアを出してみよう」と頭の中で道が開けていくのだという。

こうして「シブ経」や「デパチカドットコム」も誕生し、その名のもとに人気情報サイトへと育っていった。

商標権の取得によって事業をセーフティに

自社で考えたビジネスの仕組みやソフトの権利を、世の中に示したいのなら「少なくとも商標権は取っておいたほうがいい」と西代表は勧める。商標はビジネスモデルの中身まで守ってくれるものではないが、登

あらかじめ商標やドメインを取得することはアイデアを育てるための投資

ビジネスの源泉を思いついた段階で、それを表す商標とドメインをセットで考える西代表。文字の並びはもちろん、音としても座りのいいネーミングを考える。そのすべてがしっくり来た時に頭の中に残り、プロジェクトとして育てていくのだという。「商標やドメインは簡単に検索できますから、



広域渋谷圏(渋谷、青山、原宿、代官山、恵比寿)のビジネス&カルチャーニュース「シブヤ経済新聞」。各地のネット経済新聞と共に構成している「みんなの経済新聞ネットワーク」は、2010年度グッドデザイン賞を受賞している
http://www.shibukei.com/



全国のデパ地下の最新情報などを掲載する情報ポータルサイト「デパチカドットコム」。「みんなの経済新聞ネットワーク」にも共通することだが、記事はニュースであるとともに、貴重なアーカイブとなっている
http://www.depachika.com/

録することで、「私たちがこのビジネスを、この時点で始めました」という公的な記録にはなる。「無理そうなネーミングでも、試しに一度申請してみるといいですよ。もし拒絶された場合でも、その商標は他の企業、たとえ大手企業であっても申請が認められないということ。その事実がわかるだけでもいい。商標は企業の規模に関係なく、誰に対してもフェアなのがいいところ。そう語る西代表が、ネーミングを考えるうえで大切にしていることを教えてくれた。「ネット検索で探しやすいキーワードにすること。デパチカドットコムも、“デパ地下”で検索すると、三番目くらいまでには表示されます。ネットでの検索結果が、ビジネスにも影響を及ぼす時代です。そこはよくよく考えます。ぜひ、参考にしたい。」

知的財産活用のポイント

キーワードが浮かんだらすぐにチェック。空いていたら自分の気持ちを奮い立たせる意味でも、まずは取ってしまう。ドメインは一年経って、アイデアが何の形にもなっていなかったら、更新しなければいい。取得にかかった労力や費用は、アイデアを育てるための投資と思えばムダにはならないはずですよ。